

日本数学協会

第24回総会議事録

1. 日時 2024年7月27日(土)午後13時35分～14時10分
2. 場所 トモエ算盤(株)2F会議室およびZoom中継
3. 会員数 351名(2024年7月26日現在)
4. 出席者数 93名(うち委任状45名)
5. 議事経過 事務局より、出席者数が会則第20条で規定している定足数(会員の5分の1以上)に達しており、本総会が有効に成立した旨の報告があった後、会則第19条第1項の規定により、上野健爾会長が議長となり、本総会を進行する旨の宣言がされた。
上野議長から開会挨拶があった後、本総会の議事録署名人に、菅原邦雄氏と渡辺芳行氏を指名し、議事に入った。

6. 議題

- (1) 2023年度事業活動の報告・同収支決算の報告について
事務局より資料に基づき一括して説明し、会員に意見を求め質疑応答や意向の確認後、原案通り異議なく承認された。要約は以下のとおりである。
■幹事会が例年に比べ3倍多く開催され議論を重ねたこと
■Zoom講義や数学文化公開講演会などを年間27回開催したこと
■年次大会は地方や支部活動の活性化を目的として東京と福井で行ったこと
■編集委員会の委員長交代後はニュースレターに特集記事を組むなど、目標どおり内容に企画され発行したこと
■正味財産の増減報告で、前年度比で収入が▲55万円ほどであったが、支出が▲130万円だったのでプラスの収支でおさまっている。要因は数学文化休刊に伴う▲190万円なので事業活動として喜べる節減ではないこと
■沖津監事から「事業は適切に運営され、決算書は適正に作成されている」ことが宣言された
- (2) 2024年度以降の活動計画(案)・同役員・委員会について
上野議長より資料に基づき一括して説明し、会員に意見を求め質疑応答や意向の確認後、原案通り異議なく承認された。内容は総会資料のとおりである。
- (3) 解散に伴う清算人の選出および財産処分の方法について
■上野議長から理事会で清算人に選出した黒木哲徳氏、吉田宇一氏と沖津武晴氏を指名し、異議なく承認された。
■事務局より2024年度の収支試算資料に基づき一括して説明した。要約は以下のとおりである。
・2023年度の終了時で預貯金残高が150万円あること

- ・収支試算では2024年度は▲50万円ほどになること
- ・2025年度以降は支出がもう少し減る見込みなので、2024年度以降の活動計画(案)どおり3年間に近い活動が続けられる見通しであること
- 清算人から財産処分の方法を提示、説明した。会員に意見を求め質疑応答や意向の確認後、原案通り異議なく承認された。提示内容は以下のとおりである。

日本数学協会解散に当たっての財産処理方法

表題につき会則第37条に基づき、次のように提案します。

「日本数学協会解散時において残存する資産については、日本数学協会解散後のZOOM講義の運営主体に移管する。」

清算人

沖津 武晴

黒木 哲徳

吉田 宇一

以上の決議をもって上野議長が日本数学協会の解散と総会の閉会を宣し、第24回総会を終了した。

上記の決議を明確にするため本議事録を作成し、議長および議事録署名人は次に記名押印する。

2024年7月27日

日本数学協会

議長 上野 健爾

議事録署名人 菅原 邦雄

議事録署名人 渡辺 芳行

